The Encyclopedia of the Enlightenment

啓蒙思想の百科事典

2023年1月刊行

日本18世紀学会
啓蒙思想の百科事典編集委員会 編

A5判・712頁
定価22,000円(本体20,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30785-4

「啓蒙の時代」と呼ばれる18世紀。知性と経験に基づいて文明を立て直し、人間化しようとする「啓蒙」というムーブメントは、現在までも波及し続けている。本書では日本の18世紀研究者が集結。時代と担い手を変えながら変貌し、また「近代」を育みながらそれをも超える、啓蒙の多彩で豊饒な世界を浮き彫りにしていく事典。

【関連書籍】

社会思想史事典

社会思想史学会 編

A5判・884頁
定価22,000円(本体20,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30341-2

社会思想史上の重要なトピックを体系的に把握できる構成にし、それぞれの時代の思潮を立体的に浮かび上がらせる。社会思想史学会が全面的に編纂に携わった「読む事典」。

社会経済史学事典

社会経済史学会 編
馬場 哲 編集委員長

A5判・746頁
定価24,200円(本体22,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30602-4

経済学と歴史学を基盤に、人文社会科学や自然科学も必要に応じて利用する学際性の強い学問である社会経済史学。本事典はその全体像を最新状況を踏まえて体系的に解説。

日本思想史事典

日本思想史事典編集委員会 編
日本思想史学会 編集協力

A5判・744頁
定価24,200円(本体22,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30458-7

日本思想史学会による編集協力のもと、歴史学、政治学、倫理学、宗教学、文学などさまざまな視点から日本思想を解説した中項目事典。

科学史事典

日本科学史学会 編

A5判・758頁
定価24,200円(本体22,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30606-2

日本科学史学会の編集のもと、科学史上の重要な概念から現代の科学技術が直面する問題まで多岐にわたるトピックを網羅的に扱った「読む」中項目事典。

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 営業部
TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 https://www.maruzen-publishing.co.jp

丸善出版株式会社 行　FAX 03-3512-3270

注文書

啓蒙思想の百科事典　定価22,000円(本体20,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30785-4　　冊

　　冊

お名前

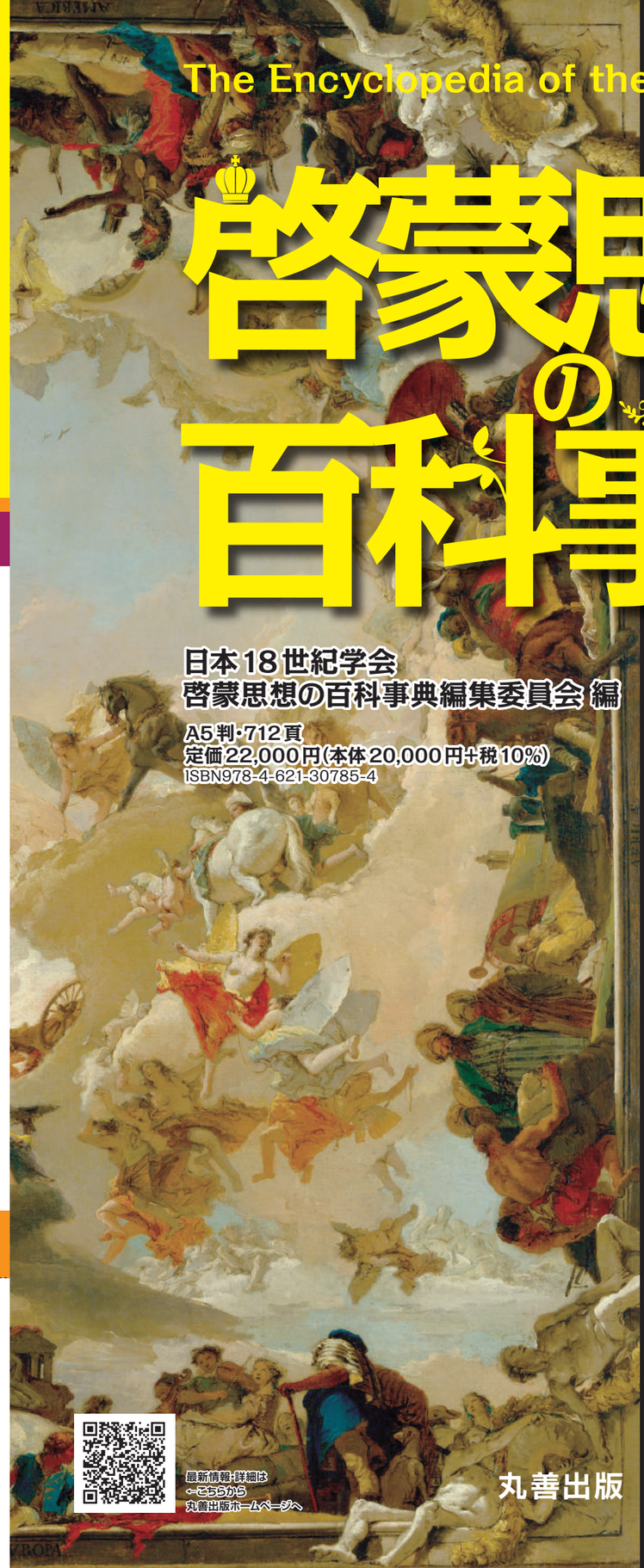
ご住所　〒

TEL

取扱店

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

tkp.23.A0e



The Encyclopedia of the Enlightenment

啓蒙思想の百科事典

日本18世紀学会
啓蒙思想の百科事典編集委員会 編

A5判・712頁
定価22,000円(本体20,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30785-4

編集委員長
長尾　伸一　(名古屋大学名誉教授)

編集幹事
上野　大樹　(慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員／経済学部 非常勤講師)
小田部　胤久　(東京大学 大学院人文社会系研究科 教授)
武田　将明　(東京大学 大学院総合文化研究科 教授)
逸見　龍生　(新潟大学 人文学部 教授)

編集委員
岩佐　愛　(武蔵大学 人文学部 准教授)
大石　和欣　(東京大学 大学院総合文化研究科 教授)
大崎　さやの　(東京大学 文学部／教養学部 非常勤講師)
大野　誠　(立正大学 文学部 教授)
大野　芳材　(美術史家)
隠岐　さや香　(東京大学 大学院教育学研究科 教授)
奥　香織　(明治大学 文学部 准教授)
川村　文重　(慶應義塾大学 商学部 准教授)
桑原　俊介　(上智大学 文学部 准教授)
小関　武史　(一橋大学 大学院言語社会研究科 教授)
斉藤　渉　(東京大学 大学院総合文化研究科 教授)
坂下　史　(東京女子大学 現代教養学部 教授)
佐藤　空　(東洋大学 経済学部 准教授)
鳥山　祐介　(東京大学 大学院総合文化研究科 准教授)
深貝　保則　(横浜国立大学名誉教授)
松原　薫　(東京大学 大学院人文社会系研究科 助教)
安武　真隆　(関西大学 政策創造学部 教授)
若澤　佑典　(慶應義塾大学 文学部 助教)
渡邉　浩一　(福井県立大学 学術教養センター 准教授)

最新情報・詳細は
こちらから
丸善出版ホームページへ

丸善出版

◆電子書籍のお求めはこちらから
MeL Maruzen eBook Library　KinoDen Kinokuniya Digital Library　LibrariE TRC-DL　KW Knowledge Worker　UNIV. Co-op　honto　Kindle

本書は、FSC認証紙を使用しています。

刊行にあたって

本書はわが国で初めて出版される啓蒙思想の事典である．同種の事典はすでに欧米諸国でいくつか編纂され，また日本では第二次世界大戦後に啓蒙研究が盛況を見せて，原典や欧米の研究書の翻訳から独自の優れた研究，叢書にいたるまでの多くの書物がすでに出版されているが，啓蒙思想の全体を総合的に通覧できる事典は今まで存在しなかった．

戦後の啓蒙研究の国際的フォーラムはフランス，アメリカ合衆国，イギリス，カナダなどで結成された各国18世紀学会の連合体として，1967年に設立された国際18世紀学会（ISECS: International Society for Eighteenth-Century Studies）だが，本書は国際学会の加盟団体である国内学会として1979年に結成された日本18世紀学会が設立記念事業として企画し，編纂の主体となっている．この経緯から，本事典は日本にとどまらず，国際的な啓蒙研究の最新の水準に立ちつつ，日本の研究独自の視点を加えて，研究者から啓蒙思想に関心を持つ読者すべてに啓蒙に関する知識を提供する事典であり，入門書となっている．

国際18世紀学会や日本18世紀学会は，啓蒙とそれにかかわる文化的事象を総合的，学際的に理解することを目的としており，ヨーロッパ18世紀を研究する様々な専門分野の専門家たちを会員とする学際的学会である．そのため本事典は，通常啓蒙という言葉から連想される哲学や政治・社会・経済思想などにとどまらず，啓蒙を代表する出版物である『百科全書Encyclopédie』にも倣って，入門書としての概観性を保つ範囲で，啓蒙と18世紀に関するすべてを網羅した，文字通り「啓蒙思想の百科事典」である．

本書は「読む事典」として企画されており，第2部から第5部までが時代順に配列されている．第1部では現代の啓蒙研究にとっての必読文献といえるいくつかの研究と研究書および日本の啓蒙研究を解説し，第2部ではルネサンスから17世紀までの啓蒙の前史に関する事項を扱う．中心部分である第3部は啓蒙の全体を通観する章から始まり，その後に主題の内容別に項目を分類して示している．第4部では19 世紀以後の世界での啓蒙の影響を追跡し，第5章では現代思想と啓蒙の関連を議論する．このような構成となっているので，本書は多数の著者による様々な項目から成ってはいるが，最初から最後まで一冊の書物として通読していただくことができる．とはいえ通常の事典のように，関心を持ったどの項目から読み始めていただいても，関連する項目へ次々に飛んでいくことで，やがてばらばらの知識の総計ではなく，啓蒙の全体を観察することができる．本書の編集方針がそうであるからだけでなく，様々な知識が自律しながら緩やかに結びついて全体を形作るのが，百科全書および啓蒙時代の知識の在り方だったからである．

本書第1部で解説された啓蒙研究の先駆者たちを受け継ぎ，国際18世紀学会や日本18世紀学会などをフォーラムとする現代の啓蒙研究は，啓蒙を現代人の眼で西洋の近代思想と見るのではなく，それをまず18世紀の歴史的文脈の中に埋め込まれた歴史的事象として，あくまで内在的に理解しようとする．そうしなければ啓蒙の「歴史的役割」，「今日的意義」などを論じることはできないと考える．思想は抽象的，普遍的な概念ではなく，ある社会的現実の中で生成し，当時の知識と文化の全体と結びつきながら，そこで特定の機能を果たす．過去の思想の理解はそこから始まる．そのため現代の研究は知識，文化およびそれを支える社会の実態をとらえるために，原資料を探索し検討する実証研究となり，また多方面の専門分野を総合する学際的な方法を採用することになる．本事典はこのような観点から，啓蒙時代の知識と文化の全体を扱い，色とりどりの万華鏡のような，絢爛とした一大絵巻のようなその世界を描き出すことで，啓蒙の実像を示そうとしている．

本事典は啓蒙の地理的舞台となったユーラシアの西端にあるヨーロッパではなく，その反対の極東に位置する日本の学会による出版であり，それを自覚して，日本での研究の個性を明確にするように心掛けて編集されている．啓蒙は18世紀ヨーロッパ固有の思想的，文化的現象だが，同時期の東アジアには類似の現象が見られ，啓蒙時代にも中国などからの影響が見られるので，これらを考慮すると，それはさらに少なくとも初期近代ユーラシア世界の発展の中で理解される必要がある．また工業化以前の18世紀的世界の現象とはいえ，啓蒙が19世紀以後の近代思想に多くの基本観念を供給したことも確かである．この関係には，この世紀に始まる欧米諸国による世界の実効支配に，思想的文化的武器を提供したという負の面がある．人間中心主義やユーロセントリズムの萌芽も，啓蒙の中に見ることができる．しかし知性と経験に基づいて文明を立て直し，人間化しようとするムーブメントとしてとらえれば，啓蒙の影響はそれを超えて現在にまで波及し続けている．啓蒙思想は講壇で整然と講義される教説ではなく，相互に矛盾し，対立し，干渉し合いながら展開してきた．それは啓蒙が時代と担い手を変えながら変貌していくプロセスであり，運動であり，中心のない波動だからである．本事典の中を旅しながら，「近代」を育くみながらそれをも超える，啓蒙の多彩で豊饒な世界を体験し，そこから現代を考えるための何かを得ていただければ幸いである．

2022年12月1日

編集委員長　長尾　伸一

目　次

●第1部　研究史

総論／『啓蒙主義の哲学』（カッシーラー）／『ヨーロッパ精神の危機』（アザール）／『文明化の過程』（エリアス）／『啓蒙のユートピアと改革』（ヴェントゥーリ）／『透明と障害』（スタロバンスキー）／『批判と危機』（コゼレック）／『自由の科学』（ゲイ）／『マキァヴェリアン・モーメント』（ポーコック）／『猫の大虐殺』（ダーントン）／百科全書研究／フランス革命の研究／日本の啓蒙研究（1）── 総論／日本の啓蒙研究（2）── 各国の研究／**【コラム】**ヨーロッパの成立／**【コラム】**啓蒙はEnlightenmentか?

●第2部　啓蒙の起源

総論／イタリア・ルネサンス／原子論／懐疑主義／科学革命／旅行記／寛容論／社会契約論／モンテーニュ／リベルタン／ホッブズ／デカルト／ケンブリッジ・プラトニスト／ロック（ロック主義）／スピノザ／マルブランシュ／ライプニッツ／ベール／フォントネル／**【コラム】**真空

●第3部　啓蒙時代

総論

第1章
啓蒙とは何か
フランス啓蒙／名誉革命体制／イングランド啓蒙／スコットランド啓蒙／ドイツ語圏の啓蒙／イタリア啓蒙／スペイン語圏の啓蒙／オランダの啓蒙／スカンディナヴィアの啓蒙／ポーランドの啓蒙／ロシアの啓蒙／多言語世界の啓蒙 ── 国際都市ケーニヒスベルクとカント／ラディカル啓蒙／アメリカ独立と啓蒙／フランス革命と啓蒙／フランス革命の反響（イギリス・ドイツ）／ジェンダー／ユダヤ人と啓蒙／イスラームと啓蒙／18 世紀日本と啓蒙／18 世紀中国と啓蒙／新儒学（新儒教）と啓蒙／**【コラム】**オラトリオ

第2章
思想・哲学・宗教
理神論／唯物論／無神論／観念論と実在論／人類／教養，陶冶／幸福／コモン・センス／文芸共和国／ヘルメス主義／地下文書／フリーメイソン／『百科全書』／ストア主義／キケロの受容／義務論（キケロからの展開）／18 世紀の聖書研究／ジャンセニスム／アンチ・フィロゾフ／非国教徒／敬虔主義／福音主義／典礼論争／歴史記述／エルヴェシウス／経験的心理学 ── 合理的心理学から経験的心理学へ／自愛心・エゴイズム／無意識の発見／オリエンタリズム／南洋／蘭学／フィロゾフ／ヴィーコ／ヴォルフ／モンテスキュー／ヴォルテール／ヒューム／ルソー／ディドロ／ヴィンケルマン／カント／レッシング／汎神論論争／リヒテンベルク／ヘルダー／ゲーテ／シラー／フンボルト／キリシタン時代と蘭学時代間の儒教精神 ── 新井白石とシドティとの出会い／洪大容と山片蟠桃／**【コラム】**オートマトン

第3章
科学と技術
自然誌 ── ナチュラルヒストリー／ニュートン主義／複数世界論／実験／機械論と生気論／化学／フロギストン，カロリック，ミアスマ／数学／動物磁気／観相学と骨相学／王立協会と科学アカデミー／印刷技術／インテリア／測定と器具／織機／蒸気機関 ── 産業革命の動力源／**【コラム】**気球

第4章
文学・芸術
小説／書簡／シュトゥルム・ウント・ドラング／ゴシック・ロマンス／リベルタン文学／民謡，民話の発見／黒人のナラティブ／『ロビンソン・クルーソー』 ── 近代人の寓話／『ガリヴァー旅行記』と科学諷刺／『カンディード』 ── わたしたちの庭を耕さなければならない／『悪徳のさかえ』（サド）／『歓喜に寄す』 ── 友情と熱狂の酒宴歌／演劇／シェイクスピア・リヴァイヴァル／オペラ／ポリフォニーとホモフォニー／器楽の美学／魔笛／ダンスとバレエ／バロック／ロココ／古典主義 ── 美術における／風景と庭園／ピクチャレスク／ゴシック・リヴァイヴァル／新古典主義／諷刺画／《テーテル島の巡礼》（ヴァトー）／《食前の祈り》（シャルダン）／《マハ》（ゴヤ）／トルコ趣味／シノワズリー／劇場／美術館／修辞学／崇高／趣味／センシビリティー（感受性）／天才／熱狂／新旧論争／美学の誕生／文献学／芸術批評／**【コラム】**啓蒙期の西洋舞台芸術における異郷

第5章
「改革」と「改良」の時代 ── 政治・法律・経済
ブルジョワ，市民の概念について／市民社会／コスモポリタニズム／人権宣言／女性の権利／平和論／自然法／共和主義／権力分立／統治の学／官房学／啓蒙専制君主／主権と戦争／帝国の盛衰論／ラディカリズム／革命／国民・民族主義・祖国愛／私的所有／奢侈論争／人口論争／商業社会／貿易・交易／奴隷貿易／植民地／金融／経済学の誕生／重商主義／重農主義／『市民社会史論』／『国富論』／**【コラム】**理性の時代

第6章
「市民」の形成 ── 社会・文化
社交性／マナー ／マナーズ／言論・印刷の自由／ジャーナリズム／『スペクテイター』／辞典・事典と啓蒙／著作権と出版業／都市計画・都市開発／コーヒーハウス／サロン／読書クラブ／奢侈／ファッション／習俗と社会学／大学／教育／『エミール，または教育について』／グランド・ツアー／博愛／慈善事業／ガストロノミー／プライヴァシーの誕生／東アジアの文芸共和国／ケンペルの日本論／**【コラム】**活人画

●第4部　19世紀

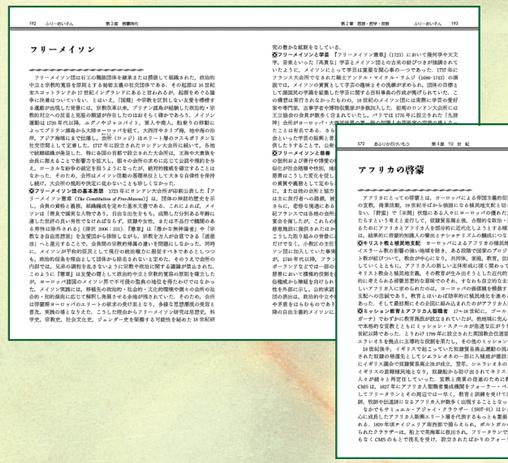
総論／進歩史観と啓蒙／ロマン主義と啓蒙／自由主義と啓蒙／功利主義と啓蒙／社会主義と啓蒙／日本の「啓蒙」／中国の「啓蒙」／梁啓超／近代朝鮮の「啓蒙」／アフリカの啓蒙／**【コラム】**リングワ・フランカ

●第5部　現代と啓蒙

総論／啓蒙の弁証法／フーコー ── 啓蒙のリミットを超えて／ハーバーマース／再帰的近代化／ポストモダンと啓蒙／編集知 ／啓蒙と環境 ／**【コラム】**自然に帰れ

●付録

『啓蒙思想の百科事典』主要作品年表／参照・引用文献／事項索引／人名索引／作品索引



編集委員長　長尾　伸一